

NPO 自立支援センター ふるさとの会

2009.05.20
【第5号】



これはHTML形式のMAILです。オンラインで無い場合は画像が表示されない可能性があります。

※ふるさとの会のメールマガジンをご愛読いただき、誠にありがとうございます。今後もふるさとの会の活動内容を定期的に情報発信させていただきたいと存じます。

INDEX

1. 「災害に学ぶー三宅島とニューオリンズ」プログラム
2. 職員研修報告
「高齢者の地域居住の実現と～介護の社会化～」石川治江さん
3. シリーズ ふるさとの会で働く 就労支援事業部 小林英夫
4. 苦情解決第三者委員会 新委員のご就任
5. NPO法人すまい・まちづくり支援機構が活動を開始
6. Gallery Cafe三富製作所 『変容ーメタモルフォーゼ』展のご案内♪

1. 「災害に学ぶー三宅島とニューオリンズ」プログラム

去る4月19日、「災害に学ぶー三宅島とニューオリンズ」というプログラムの一環として、ニューオリンズで災害復興支援に携わる行政の担当者、路上生活者支援を行っている支援団体の職員など総勢7名が当会の見学に来られました。

最初に当会本部にて古木事務局長が山谷地区と当会の事業概略について説明。続いて、実際の支援の現場を見学いただくためホテル三晃へ場所を移し、要介護高齢者を地域のネットワークの中で支える取り組みをご覧いただきました。最後に、三富製作所・就労支援ホーム「二丁目ハウス」へお連れし、就労支援事業部責任者の小林から当会の就労支援の取り組みについてお話をさせていただきました。

見学者の方々は山谷地区について非常に興味がお持ちで、山谷の歴史と日本の高度経済成長時の日雇い労働のシステム、生活保護のシステムから当会が取り組んでいる事業内容について等多くの質問や意見を受けました。その中で「日本でもアメリカでも、災害時には日常的に疎外されている人は避難場所へ行くことが難しく、さらに地域から疎外される。」という意見を聞き、お互いの国の現状が強く心に残りました。

今回の見学を終えた後、大変参考になったとの感想をいただいた事や、日本の生活困窮者問題と当会がそれに対して行っている事業内容について、海外の方達から強く興味を持ってもらえた事を非常に嬉しく思いました。(望月拓馬)



2. 職員研修報告「高齢者の地域居住の実現と～介護の社会化～」石川治江さん

去る5月9日、ふるさとの会の職員研修で、NPO法人ケア・センターやわらぎの代表理事 石川治江さんをお招きし、「高齢者の地域居住の実現と～介護の社会化～」と題した講演をして頂きました。冒頭では「ケア・センターやわらぎ」を創立したエピソードが語られました。障害を持った方との出会いがきっかけで「立川駅にエレベーター設置を要求する会」を作り、16年かけてエレベーターを設置させ、当時の国鉄の対応の悪さから介護の『仕組み』を作ろうとケア・センターやわらぎを創立したとのことでした。

石川さんは創設時から、障害を持った方の家族の過酷な状況などを目の当たりにして「介護とはいったいなんだろう？ どういうことだろう？」と考えるようになり、自問自答しているうちに、1つのキーワードが見えてきたとのことでした。それは【サービスの可視化】ということで、見ることが出来ないサービスをどう視覚化するか、見せるものにするか。そのツールとして【ichigoシステム】を開発し、そのシステムの完成によってサービスの視覚化が出来るようになったと同時に医療と連携していくためのツールとしても有効に活用出来るようになったとのことでした。

さらに、介護にはいつ介護をするかという『時』があり、その『時』に、サービスは見せられるし見えるものになる。その『時』をきちんと自分の中で位置づけ意識化しなくてはいけない。また意識化するには資格を取って、専門性を身に付けていくのが重要であり、医療との連携という意味においても自分たちがどのような能力・専門性を身に付けていくのかということが問われているとのことでした。

最後に石川さんは、介護とはどういうものなのかをもっと議論すべきである。それと同時に『死』というものの議論ももっとオープンに色々な場所ですべきである。また介護と医療の問題もあり、介護と医療が融合され、融合して重なり合ったところに新しい出会いや提案が出てくるのでは、とのことでした。

講義を拝聴し、石川さんの介護に対する熱い思いと自ら仕組みを創ってしまったバイタリティに感服しました。ふるさとの会においても、多様な利用者の居住支援・生活支援・社会サービスのコーディネートを基盤に食事や介護の提供や就労機会の創出(施設清掃・就労プログラム・ハローワーク同行)など精力的に活動し、ケアの可視化という意味では、日報やケース記録の情報の共有化などに取り組んでいます。また、今の介護はどこまでが介護で、どこからが医療なのか。医療にまつわる処置がヘルパーに求められるようになっている昨今、我々ふるさとの会としても、介護を必要としている入居者の方々をどのように支えていくかが問われているのではないかと考えさせられました。

(滝澤健一郎)



3.シリーズ ふるさとの会で働く 就労支援事業部 小林英夫

利用者対応に営業にと毎日非常に忙しく時間がとれない小林さんですが、貴重な時間を利用してのインタビューでした。

～まず、ふるさとの会に入社したきっかけを伺いたいのですが。

小林:アルバイトから仕事を始めました。仕事内容は技能講習(自立支援センターを利用されている方々を対象にした資格・技能取得の支援。平成15年から19年3月までふるさとの会で受託)の施設から講習先までのつきそいでした。

～その後も就労支援事業部で働いていたとのことですが、現在の仕事の内容を教えてください。

小林:今一番力を入れているのはやはり「なずな」「2丁目ハウス」そして母子・単身女性専用の「はるかぜ」といった就労支援ホームの運営です。住居の提供のみならず、様々な支援サービスを提供しているのが特色です。現在計24名入居しています。

～具体的にどのようなサービスを提供しているのですか。

小林:ふるさとの会の就労支援ホームには、サウナやネットカフェ等から派遣労働に従事するなど不安定な住居と仕事を転々としてきた方、軽度の精神・知的・身体障害や疾病といった、就労を阻害する要因を抱えている方が入所しており、生活の安定から支援を始める、中・長期的な関わりが求められます。就労支援の面では、我々が「ケア付き就労」と呼んでいる、職場における見守り、そして働き手の条件にあわせて職場の環境を整える取り組みを通じて、清掃、賄い補助、宿直、ヘルパーとして実際にふるさとの会施設で就労している利用者が7名います。「なずな」ではヘルパーの資格取得、取得後の職場体験、雇用までを継続的に支援しています。最近では、ふるさとの会施設のボランティア活動を通じ、人と接する訓練をする「社会適応訓練」も行っています。

～今後はどのように発展させていくつもりですか。

小林:三障害を抱えた方のための作業場を作るなど、他の事業部と連携して今以上のソフトの充実が必要だと思います。日々勉強しています。

～仕事上で苦労した点を聞きたいのですが。

小林:日々毎日大変ですけど…あまり苦労と感じたことはないですね。

自分が短気なせい、利用者の置かれている環境を考えると苛立ちを覚えることはあります。何とか今の利用者の環境を解消したいという怒りで仕事をしている感じがします。就労支援をしていると母子だから、障害があるから、住居が無いから、などの理由で就職できない方をよく目にするので、社会的排除が良く分かります。排除された方をどう支援していくかを考えることが多く、低料金で保証人の要らない住居、専門的な技術を学ぶための助成金など、生活保護以外のセーフティーネットの必要性を感じます。

～逆にうれしかった点は

小林:生保受給者の就労支援の場合、命に直結するわけではなく、背中を押してあげる感じに似ているので達成感を感じにくいものです。そのなかで、利用者と町ですれ違った際に笑顔で挨拶をしてもらえることが一番うれしいですね。支援した実感があります。

～今一番したいことは

小林:軍艦島に行きたいですね。1週間ほど休みを取って。

今、就労支援の必要性は誰もが感じていることと思います。私の所属している地域生活支援事業部の利用者の中にも、安定した仕事に就いていたのに昨年末から仕事を失い、困っている方が大勢います。生活困窮者支援を事業として展開しているふるさとの会にとって、小林さんが感じている社会への苛立ちや現状を変えていきたいという思いが新しい事業を生み出すエネルギーになっているのだと感じました。



4.苦情解決第三者委員会 新委員のご就任

ふるさとホテル三晃では、社会福祉法第82条の規定に基づく苦情解決に、市民性や客観性を確保し、利用者の立場や特性に配慮した適切な対応を推進するため、平成18年7月1日より苦情解決第三者委員会を設置。各界より委員をお迎えし、公平性・客観性・中立性を確保しています。

去る3月より、下記のとおり、新しい委員の下での第三者委員がスタートしました。さらに活動の客観的評価、報告書などの作成をすることで、生活困窮者支援のためのサービスの質の向上に努め、今後の活動につなげていこうと考えております。

委員長 台東区役所職員 元東浅草小学校PTA会長
委員 静岡大学人文学部 教授
聖徳大学短期大学部 准教授
国立精神・神経センター精神保健研究所精神保健計画部長
東京外国語大学 外国語学部 准教授

今関 顕治 氏
布川日佐史 氏
蓑輪 裕子 氏
竹島 正 氏
大川 正彦 氏

5.NPO法人すまい・まちづくり支援機構が活動を開始

昨年からの設立の準備を進めていた、特定非営利活動法人 すまい・まちづくり支援機構が去る3月10日に正式に認証を受け、その活動をスタートさせました。

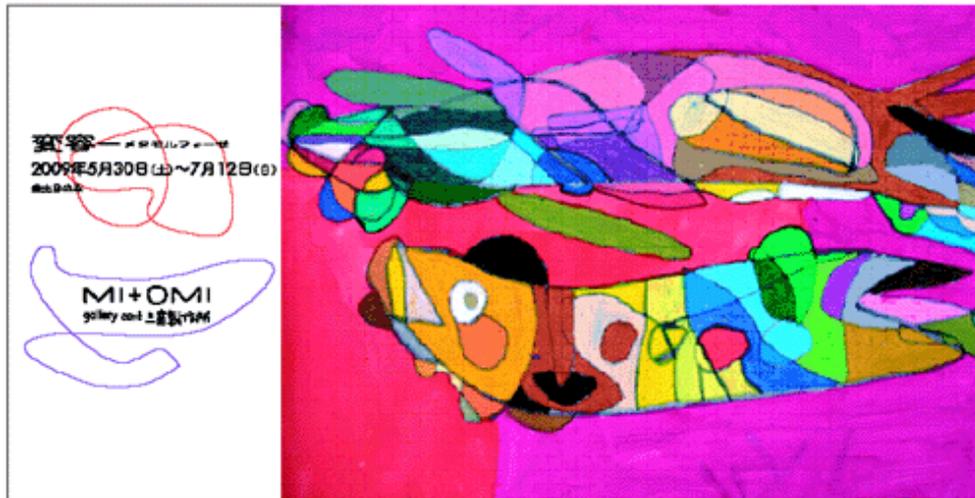
同法人では、まちづくり、金融、会計、医療・保健など各分野の専門家が役員・社員になり、NPOに対するコンサルティングやアドバイザー事業を担っています。現在は、ふるさとの会が日本版CDCを推進していくために、その多彩なネットワークを活用して、事業提案ならびに事業点検を行っています。

【特定非営利活動法人 すまい・まちづくり支援機構 役員】

代表理事	水田 恵	NPO法人 ふるさとの会 理事
監事	山岡 義典	日本NPOセンター 代表理事
監事	内藤 純	公認会計士/税理士
理事	林 泰義	NPO法人シーズ・市民活動を支える制度をつくる会 代表理事
理事	藤田 寛	(株)日本政策投資銀行 公共ソリューション部長
理事	中島 明子	和洋女子大学家政学部生活環境科 教授
理事	岸本 幸子	NPO法人 パブリックリソースセンター 事務局長
理事	原田 由美子	京都女子大学家政学部生活福祉学科 准教授
理事	大島 茂士朗	市民運動家/ストップ ザ もんじゅ 事務局長
理事	的場 由木	保健師
理事	秋山 雅彦	NPO法人 ふるさとの会企画室長
社員	山本 讓司	元衆議院議員/「獄窓記」著者
社員	山下 眞実子	NPO法人 訪問看護ステーションコスモス 代表理事
社員	稲田 七海	大阪市立大学 都市研究プラザG-COE 研究員
社員	葛西 リサ	大阪市立大学 都市研究プラザG-COE 研究員
社員	久保 紀世子	ジャーナリスト

社員	遠藤幸司	合資会社 あへつど代表
社員	佐久間裕章	NPO法人 ふるさとの会 理事
		NPO法人 ふるさとの会 代表理事

6. Gallery Cafe三富製作所 『変容ーメタモルフォーゼ』展のご案内♪



基本情報

期間:2009年5月30日土曜日～7月12日日曜日

開廊日:金 pm3～7:30、土日 am11～pm5

入場料:800円(オリジナルタンブラー、ドリンク付き)

主催:社会福祉法人 さざんかの会

協力:特定非営利活動法人 自立支援センターふるさとの会／社団法人精神発達障害指導教育協会

詳細情報

6/12日 7/11土 am10-12

参加費1コマ2000円(画材代等諸費用、展覧会入場料込)

ナビゲーター ウラベノリコ いきいきくらす講師

事前申し込み、お問い合わせ:(社福)さざんかの会

tel 03-5963-6090 fax 03-5963-6091 e-mail pegasus2@hattatsu.or.jp

7.♪今月のボランティア♪

【ボランティア・カンパ大募集】

●6月21日(日)に敬老室にて炊き出しを予定しています。炊き出しの作業の合間のコミュニケーションは、とても有意義な情報交換の場となっています。ボランティアの方の参加をお待ちしています。

<連絡先>

ボランティアサークルふるさとの会 (担当:町田/馬場)

TEL03-3801-0377 FAX03-3801-0881

E-mail:boranteahurusato@gmail.com

発行元:特定非営利活動法人 自立支援センターふるさとの会

〒111-0031東京都台東区千束4-39-6

TEL:03-3876-8150 FAX:03-3876-7950

E-mail:hurusato@d5.dion.ne.jp

HTML:<http://www.d5.dion.ne.jp/~hurusato/>